

介護福祉士を志す学生の現状 ①

—志望動機と進路選択要因—

The student's current state aiming at the care worker ①
—Wish motive and course choice factor—

天野 由以
(Yui AMANO)

Abstract:

When he'd like to acquire nursing care workers qualification by the science, what is the student who wished asking from qualification as a care worker? I make it clear how you'd like to utilize nursing care workers qualification in the society by clarifying a future request in the present. I'd like to make the education contents in nursing care workers education education after entrance the considered material.

キーワード：介護福祉士、志望動機、進路選択、祖父母、同居経験

Keywords：Care worker, Wish motive, Course choice, Grandparents, Living experience

はじめに

我が国の超高齢社会を支える介護人材の不足について、厚生労働省「今後の介護人材養成の在り方に関する検討会」は平成23年1月20日付けの報告書「今後の介護人材養成の在り方について」において「平成19年の法律改正により介護福祉士の資質向上が期待される一方、現在の介護分野においては、地域によっては人手不足が生じている等の課題があり、介護人材の安定的な確保に向けたきめ細かい配慮¹⁾」の必要性を訴えている。

平成27年度8月末日現在の介護福祉士登録者数は139万7789人²⁾と140万人突破を目前にしているにも関わらず、資格を持ちながら介護職として働いていない潜在的介護福祉士が介護現場に戻るための方策についても議論がなされている。

介護福祉士という国家資格を持つ専門職に対してその活躍が期待される一方で、国家資格を

持ちながらその専門性を活かした職場で働くことができない背景には、給与額を含めた待遇の問題や、精神的にも肉体的にも厳しい重労働である事、その重労働のストレスが引き起こす職場での人間関係問題、社会的評価の低さなどがあると指摘されている。

日本学術会議社会学委員会福祉職・介護職育成分科会は平成23年9月の「提言 福祉職・介護職の専門性の向上と社会的待遇の改善に向けて」の中で「介護職に対する社会的評価や引き付ける魅力の低下などから、介護福祉士養成校の定員充足率は大学が67.1%、短期大学が51.0%、専門学校が41.3%、高校専攻科が17.5%に留まり、介護福祉士養成施設への入学定員の充足率は低下し続けており、専門学校や短期大学の介護福祉士養成施設では定員割れから廃校や廃学科などが生じている。介護職の人材が不足している一方で、それに対応する介護福祉士養成が困難であるといった矛盾が生じている³⁾。」

と、介護福祉士養成施設の厳しい現状を報告している。平成26年には2年課程の専修学校の充足率がやや上がったが、平成29年度から養成施設卒業者にも全て国家試験受験が義務づけられる制度変更前の卒業と同時に資格取得が可能となる最期の入学生となるため、一過性の駆け込み需要と考えられている⁴⁾。なぜなら、翌27年の2年課程（短期大学・専門学校）の定員充足率は50.1%、4年課程の定員充足率は53.3%と6割を切っている⁵⁾。

このような逆風の中、それでも四年制大学で介護福祉を学び介護福祉士の資格を取得したい、と志して入学してくる学生の志望動機や進路決定要因となった出来事は何であろうか。

市川・藤野⁶⁾が1988年に短期大学で介護福祉士課程を専攻する1年生に行った調査では介護福祉課程を選択した理由が積極的選択理由と消極的選択理由に分類され、積極的理由の内最も比率が高かった回答が「資格取得のため」ついで「専門的知識を深めたい」と続き、消極的理由が「女性も進学する時代だから」が最も多かったとしている。また、立脇⁷⁾が同じく短期大学の介護福祉士福祉学科に在籍する全学年の学生に行った調査では「介護福祉士資格が取得できるから」が最も多く、次いで「将来家族の介護に役立つから」「やりがいのある職種だと思ったから」「介護職に就きたかったから」と続く結果が出ている。

四年制養成施設である本学と二年制養成施設の調査結果である両研究との間に差異は生じるのであろうか。

筆者が本学人間福祉学科介護福祉士課程に着任してから毎年、入学後最初の介護福祉士専門科目「介護過程Ⅰ」の初回授業において、アンケート調査を継続して行ってきた。大学での介護についての授業が始まる前の、いわば真っ新たな状態での介護福祉士に対する思いを問うてみた。その回答から本学で介護福祉士資格を取得したいと志望した学生が介護福祉士という資格に何を求めているか、また現時点での将来の希望を明確化することで、介護福祉士資格を社会の中でどのように活かしたいと考えているかを明らかにし、入学後の介護福祉士養成教育にお

ける教育内容を検討する材料としたい。また、減少する一方の介護福祉士志願者確保対策に繋げるヒントを得たいと考える。

尚、本稿はアンケート調査6年分の内容のうち、介護福祉士課程を希望するに到った要因に関する部分をまとめた物である。

1. 調査概要

1) 調査目的

介護福祉士課程に登録を希望する学生の志望動機と進路選択の決定要因を明らかにし、4年間の資格課程修了後の進路希望を入学段階で把握する。

2) 調査対象

2010年度入学以降の本学介護福祉士課程に登録を希望する1年生全員。但し、本稿では介護福祉士資格を取得して卒業した学生と平成27年10月現在介護福祉士課程に登録している学生（2～4年生）の回答のみを集計した。

2010年度入学生（以下3期生とする）21名（男6名 女15名）、2011年度入学生（以下4期生とする）21名（男7名 女14名）、2012年度入学生（以下5期生とする）26名（男7名 女19名）、2013年度入学生（以下6期生とする）18名（男2名 女16名）、2014年度入学生（以下7期生とする）29名（男7名 女22名）の計114名（男29名 女85名）。尚、2015年度入学生は平成27年10月現在課程登録が未確定の学生がいるため本調査の対象からは除外した。

3) 調査方法

1年生時春学期第一回目の「介護過程Ⅰ」講義の冒頭に質問紙を配布。授業時間内に回収した。資格課程への登録意思を確認するための資料として用いること、成績や評価に用いることはない、と思ったとおりの気持ちで回答して欲しいこと、集計結果を研究や報告に用いることがあること、その際は個人名などが特定されないよう配慮する事を口頭で説明した。尚、介護福祉士課程は入学年度に登録をする事が義務づけられているため、再履修の学生を除いて他

学年からの履修は不可能である。本調査は再履修の学生には実施していない。

4) 調査内容

大学入学以前の高齢者福祉施設訪問経験の有無、訪問時期、訪問理由、訪問施設種別、訪問経験の進路選択への影響の有無、進路選択に影響を与えた事柄、動機となった事柄（26項目より複数選択）、祖父母との同居経験の有無、祖父母の健康状態、年齢、会う頻度、卒業後の進路希望（12～15項目より複数選択）、『私が目指すのは〇〇〇な介護福祉士』の〇〇〇を埋める文章完成法による質問とした。

なお、本調査項目を作成するにあたり、動機となった事柄の26項目は先行研究^{8) 9)}の調査項目を参考にし、既に入學していた本学介護福祉士課程2期生への入学動機に関する調査票の回答を元に作成した。

5) 分析方法

単純集計による入学年次毎の比較を行った。

2. 結果

1) 分析対象者の特性

本調査の対象となった学生の男女比と入学年次による人数は以下の通りである。（表1）

本学介護福祉士課程の男女比は3期生から7期生（以下調査対象生とする）全体で男25.4%、

女74.6%であった。男子学生の割合は学科全体でも2～3割であり、介護福祉士課程を志す男子学生が特に少ない訳ではない。6期生の人数が18名と介護福祉士定員50名に対して36.0%と極端に少ないが、その後は年々登録者数が増えている。しかし、最も課程登録者数が多い7期生でも課程定員の58.0%と、先述¹⁰⁾の介護福祉士養成四年制大学の定員充足率をわずかに上回る状況である。

2) 高齢者福祉施設訪問経験の有無と進路選択に与える影響

入学年度ごとに多少の差はあるが、介護福祉士課程を志す学生の約七割が、大学入学以前に高齢者福祉施設を訪問する経験をしている（表2）。

訪問先の施設種別については入学以前の経験のため、施設名称に関する知識が不足しているためか「老人ホーム」という記述が多く、分析の対象から除外した。

施設を訪問した時期は高等学校在学中が最も多く（59.5%）、次いで中学校在学中（34.2%）であった（表3）。訪問した理由は学校行事や体験学習などの学校主導の（43.3%）が最も多いが、次いで多かったのが、自分自身が介護や福祉の現場に興味を持ち、自主的に訪問したという理由（14.4%）であった（表4）。

また、入学前の高齢者福祉施設訪問経験が人

表1 入学期毎の男女数

n = 115

	3期生	4期生	5期生	6期生	7期生	合計
男	6 (28.6%)	7 (33.3%)	7 (26.9%)	2 (11.1%)	7 (24.1%)	29 (25.2%)
女	15 (71.4%)	14 (66.7%)	19 (73.1%)	16 (88.9%)	22 (75.9%)	86 (74.8%)
全体	21 (100.0%)	21 (100.0%)	26 (100.0%)	18 (100.0%)	29 (100.0%)	115 (100.0%)

表2 入学期毎の訪問経験の有無

n = 115

	3期生	4期生	5期生	6期生	7期生	合計
訪問経験あり	15 (71.4%)	16 (76.2%)	15 (57.7%)	15 (83.3%)	18 (62.1%)	79 (68.7%)
訪問経験なし	6 (28.6%)	5 (23.8%)	11 (42.3%)	3 (16.7%)	11 (37.9%)	36 (31.3%)

表3 入学以前に高齢者福祉施設に訪問した時期（複数回答）

高等学校 在学中 47 (59.5%)	1年生	2年生	3年生	高校3年間	学年不明
	8 (17.0%)	11 (23.4%)	20 (42.5%)	5 (10.6%)	3 (6.5%)
中学校 在学中 27 (34.2%)	1年生	2年生	3年生	中学3年間	学年不明
	5 (18.5%)	11 (40.7%)	5 (18.5%)	2 (7.4%)	4 (14.9%)
小学校 在学中 16 (20.3%)	低学年	中学年	高学年	小学6年間	学年不明
	1 (6.2%)	2 (12.5%)	7 (43.8%)	1 (6.2%)	5 (31.3%)

表4 入学以前に高齢者福祉施設に訪問した理由 n=90

学校の授業・体験学習・行事	39 (43.3%)
介護や福祉について知りたいと思ったので	13 (14.4%)
地域活動・サークル（和太鼓・伝統芸能・合唱）活動の披露	8 (8.9%)
AO入試の課題で	7 (7.8%)
ボランティアをしに	7 (7.8%)
入居している家族の面会	6 (6.7%)
初任者研修、ヘルパー2級の実習	4 (4.4%)
家族が働いているので見学や手伝い	3 (3.3%)
その他（バイト、機会があった、清掃）	各1 (1.1%)

表5 訪問経験の進路選択への影響の有無

n=79

	3期生	4期生	5期生	6期生	7期生	合計
訪問経験影響あり	14 (93.3%)	14 (87.5%)	11 (73.3%)	12 (80.0%)	14 (77.8%)	65 (82.3%)
訪問経験影響なし	1 (6.7%)	1 (6.25%)	4 (26.7%)	3 (20.0%)	3 (16.7%)	12 (15.2%)
未回答	0 (0.0%)	1 (6.25%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.5%)	2 (2.5%)

間福祉学科を専攻することや介護福祉士課程に登録するという進路選択に影響を与えたか、という問いに対して八割以上の学生が影響があったと回答している（表5）。影響が無かった、と回答した学生の中には欄外に「訪問する以前から介護福祉士になりたいと思っていたので、訪問が影響したわけでは無い」といったコメントを書いている者もあり、訪問経験以外の経験が進路選択に影響した可能性が有ることが伺えた。

3) 介護福祉士課程を志望した理由

高齢者福祉施設訪問以外にどのような要因が進路選択の動機となったか、可能性として考え

られる26の項目を示し複数選択させたところ、六割以上の学生が進路選択の動機として「福祉の専門的な知識や技術を学びたい（68.7%）」「やりがいのある仕事がしたい（67.8%）」「他人に喜ばれる仕事したい（66.1%）」「高齢者の支援をしたい（62.6%）」「将来、自分の親や祖父母の介護に役立つから（60.0%）」との項目を挙げていた。

「高校の先生の勧めがあった」は「新しい分野の学問だから」「この学科にしか合格しなかったから」と同ポイントの1.7%であり、選択者がいなかった「特に理由は無い」に次いで、選択率の低い項目となった。（表6）

表6 介護福祉士課程を志望した理由（複数選択）

	3期生 n=21	4期生 n=21	5期生 n=26	6期生 n=18	7期生 n=29	全体 n=115
新しい分野の学問だから	1 (4.8%)	1 (4.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.7%)
社会福祉の機関で働きたいから※		15 (71.4%)	14 (53.8%)	10 (55.6%)	13 (44.8%)	52 (45.2%)
資格を取ると就職に有利だから	13 (61.9%)	14 (66.7%)	12 (46.2%)	9 (50.0%)	16 (55.2%)	64 (55.7%)
公務員として働きたいから	3 (14.3%)	1 (4.8%)	4 (15.4%)	0 (0.0%)	3 (10.3%)	11 (9.6%)
人手不足で求人がたくさんあるから	5 (23.8%)	8 (38.1%)	7 (26.9%)	4 (22.2%)	7 (24.1%)	31 (27.0%)
やりがいのある仕事がしたいから	14 (66.7%)	15 (71.4%)	18 (69.2%)	12 (66.7%)	19 (65.5%)	78 (67.8%)
将来、自分の親や祖父母の介護に役立つから	17 (81.0%)	12 (57.1%)	16 (61.5%)	11 (61.1%)	13 (44.8%)	69 (60.0%)
個性や能力を生かす仕事をしたいから	3 (14.3%)	7 (33.3%)	5 (19.2%)	3 (16.7%)	6 (20.7%)	24 (20.9%)
高齢者の支援をしたいから	18 (85.7%)	16 (76.2%)	12 (46.2%)	12 (66.7%)	14 (48.3%)	72 (62.6%)
障害者の支援をしたいから	15 (71.4%)	11 (52.4%)	7 (26.9%)	11 (61.1%)	5 (17.2%)	49 (42.6%)
親の勧めがあった	1 (4.8%)	4 (19.1%)	4 (15.4%)	2 (11.1%)	3 (10.3%)	14 (12.2%)
高校の先生の勧めがあった	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.8%)	1 (5.6%)	0 (0.0%)	2 (1.7%)
他人に喜ばれる仕事したいから	17 (81.0%)	13 (61.9%)	17 (65.4%)	13 (72.2%)	16 (55.2%)	76 (66.1%)
社会の役に立つ仕事をしたいから	13 (61.9%)	12 (57.1%)	11 (42.3%)	9 (50.0%)	15 (51.7%)	60 (52.2%)
他の学科を志望したが入学できなかった	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (7.7%)	1 (5.6%)	3 (10.3%)	6 (5.2%)
この学科にしか合格しなかったから	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.6%)	1 (3.4%)	2 (1.7%)
将来したいことを見つけるため	0 (0.0%)	3 (14.3%)	2 (7.7%)	3 (16.7%)	3 (10.3%)	11 (9.6%)
福祉の専門的な知識や技術を学びたい	10 (47.6%)	18 (85.7%)	16 (61.5%)	12 (66.7%)	23 (79.3%)	79 (68.7%)
家族を介護した体験から	4 (19.1%)	4 (19.1%)	5 (19.2%)	4 (22.2%)	3 (10.3%)	20 (17.4%)
身近に障害者がいるから	4 (19.1%)	4 (19.1%)	3 (11.5%)	2 (11.1%)	4 (13.8%)	17 (14.8%)
身近に介護職がいるから	4 (19.1%)	4 (19.1%)	6 (23.1%)	3 (16.7%)	5 (17.2%)	22 (19.1%)
介護関連のTV番組を見て	1 (4.8%)	4 (19.1%)	2 (7.7%)	3 (16.7%)	5 (17.2%)	15 (13.0%)
介護関連の本を読んで	1 (4.8%)	4 (19.1%)	0 (0.0%)	2 (11.1%)	0 (0.0%)	7 (6.1%)
特に理由はない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
オリエンテーションの説明とDVDを見て	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (11.5%)	2 (11.1%)	7 (24.1%)	12 (10.4%)

※3期生へのアンケートにはこの選択肢が無い

4) 祖父母との同居経験

介護福祉士を志す学生の祖父母との同居率は全学年を平均して48.2%である。平成25年国民生活基礎調査において三世帯同居世帯は全世帯の6.6%であり、実に全国平均の7.3倍に上る。同居していたのは父方の祖母が最も多く25名(45.5%)、次いで父方の祖父16名(29.1%)、母方の祖母11名(20.0%)、母方の祖父9名(16.4%)と、父方の祖父母との同居経験が多い傾向であった。(表7)

5) 祖父母の状況

同居別居にかかわらず祖父母の年齢と現状(元気か、要介護状態か)についても尋ねたところ年齢を詳細に覚えていないためか欠損値が多く、分析対象から除外した。

祖父母の健康状態は父方母方共に祖母は元気である、との回答が多く特に母方の祖母は元気であるとの回答が多く見られた。祖父は死別か疾病・障害状態であるか、施設または病院に入院しているという回答の方が多く見られた。(表8・9・10・11)

表7 入学期毎の同居経験の有無

n=115

	3期生	4期生	5期生	6期生	7期生	合計
同居経験あり	13 (61.9%)	10 (47.6%)	12 (46.2%)	8 (44.4%)	13 (44.8%)	56 (48.7%)
同居経験なし	8 (38.1%)	11 (52.4%)	14 (53.8%)	10 (55.6%)	16 (55.2%)	59 (51.3%)

表8 母方の祖母の状況

	3期生	4期生	5期生	6期生	7期生	合計
元気	13 (61.9%)	13 (61.9%)	13 (50.0%)	11 (61.1%)	24 (82.8%)	74 (64.3%)
死別	1 (4.8%)	5 (23.8%)	5 (19.2%)	4 (22.2%)	1 (3.4%)	16 (13.9%)
身心に何らかの病気や障害	3 (14.3%)	3 (14.3%)	4 (15.4%)	2 (11.1%)	1 (3.4%)	13 (11.3%)
施設入居・入院中	2 (9.5%)	0 (0.0%)	2 (7.7%)	1 (5.6%)	1 (3.4%)	6 (5.2%)
不明	1 (4.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.4%)	2 (1.7%)

表9 母方の祖父の状況

	3期生	4期生	5期生	6期生	7期生	合計
元気	9 (42.9%)	10 (47.6%)	8 (30.8%)	8 (44.4%)	16 (55.2%)	51 (44.3%)
死別	9 (42.9%)	7 (33.3%)	12 (46.2%)	9 (50.0%)	10 (34.5%)	47 (40.9%)
身心に何らかの病気や障害	2 (9.5%)	3 (14.3%)	4 (15.4%)	1 (5.6%)	1 (3.4%)	11 (9.6%)
施設入居・入院中	0 (0.0%)	1 (4.8%)	1 (3.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.7%)
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.8%)	0 (0.0%)	1 (3.4%)	2 (1.7%)

表10 父方の祖母の状況

	3期生	4期生	5期生	6期生	7期生	合計
元気	10 (47.6%)	15 (71.4%)	10 (38.5%)	10 (55.6%)	14 (48.3%)	59 (51.3%)
死別	4 (19.0%)	2 (9.5%)	7 (26.9%)	3 (16.7%)	10 (34.5%)	26 (22.6%)
身心に何らかの病気や障害	1 (4.8%)	2 (9.5%)	3 (11.5%)	2 (11.1%)	4 (13.8%)	12 (10.4%)
施設入居・入院中	3 (14.3%)	1 (4.8%)	3 (11.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (6.1%)
不明	3 (14.3%)	1 (4.8%)	3 (11.5%)	2 (11.1%)	1 (3.4%)	10 (8.7%)

表11 父方の祖父の状況

	3期生	4期生	5期生	6期生	7期生	合計
元気	6 (28.6%)	5 (23.8%)	9 (34.6%)	7 (38.9%)	13 (44.8%)	40 (34.8%)
死別	10 (47.6%)	15 (71.4%)	11 (42.3%)	9 (50.0%)	12 (41.4%)	57 (49.6%)
身心に何らかの病気や障害	1 (4.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (10.3%)	4 (3.5%)
施設入居・入院中	0 (0.0%)	0 (0.0%)	10 (38.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	10 (8.7%)
不明	4 (19.0%)	1 (4.8%)	5 (19.2%)	2 (11.1%)	1 (3.4%)	13 (10.5%)

6) 卒業後の進路

卒業後の進路について複数選択を可能にして希望を尋ねたところ、高齢者福祉関係施設への就職を希望する者が全ての入学年度において最も多く、次いで在宅介護分野、病院などの医療関係分野、障害児・者福祉関連施設を希望する学生が多かった。(表12)

3. 考察

1) 本学介護福祉士課程学生の志望動機と進路選択要因

本学介護福祉士課程第3期生から現在在学中の第7期生まで、計115名の入学時アンケートから分かったことは以下の通りである。

- ・大学入学以前に学校行事や個人の希望で高齢者福祉施設を訪問している学生が多い。
- ・施設訪問をした学生のほとんどが、その体験が進路選択に影響したと思っている。

- ・人間福祉学科・介護福祉士課程を選択した主な理由は「福祉の専門的な知識や技術を学びたい」「やりがいのある仕事がしたい」「他人に喜ばれる仕事したい」「高齢者の支援をしたい」「将来、自分の親や祖父母の介護に役立つから」などである。
- ・介護福祉士課程を希望した学生の三世代同居率は非常に高い。
- ・介護福祉士課程を希望した学生は、入学前の福祉施設訪問か、祖父母との同居、どちらかを経験していることが多いが、そのどちらも経験せずに介護福祉士を志している学生（以下、未経験学生とする）も少数ではあるが存在する。
- ・卒業後の進路は「高齢者福祉関連施設」「在宅介護分野」「病院などの医療関係分野」「障害児・者福祉関連施設」を希望する学生が多い。

表12 卒業後の進路希望（複数回答）

n=115

	3期生	4期生	5期生	6期生	7期生	合計
高齢者福祉関係施設	17 (81.0%)	18 (85.7%)	18 (69.2%)	13 (72.2%)	24 (82.6%)	90 (78.3%)
障害児・者福祉関係施設	9 (42.9%)	7 (33.3%)	5 (19.2%)	8 (44.4%)	6 (20.7%)	35 (30.4%)
児童福祉関係施設				6 (33.3%)	4 (13.8%)	10 (21.3%)
在宅介護分野	7 (33.3%)	6 (28.6%)	7 (26.9%)	7 (38.9%)	9 (31.0%)	36 (31.3%)
病院などの医療関係の分野	7 (33.3%)	4 (19.0%)	7 (26.9%)	6 (33.3%)	12 (41.3%)	36 (31.3%)
精神保健分野					1 (3.4%)	1 (0.9%)
一般企業（福祉以外）	2 (9.5%)	0 (0.0%)	1 (3.8%)	1 (5.6%)	2 (6.8%)	6 (5.2%)
一般企業（福祉関連）	8 (38.1%)	4 (19.0%)	6 (23.1%)	1 (5.6%)	7 (24.1%)	26 (22.6%)
進学（福祉以外）	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
進学（福祉関連）	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.4%)	1 (0.9%)
公務員				2 (7.7%)	5 (17.2%)	7 (6.1%)
社会福祉協議会	4 (19.0%)	4 (19.0%)	5 (19.2%)	0 (0.0%)	2 (6.8%)	15 (13.0%)
教員			1 (3.8%)	1 (5.6%)	2 (6.8%)	4 (3.5%)
未定	5 (23.8%)	4 (19.0%)	6 (23.1%)	1 (5.6%)	5 (17.2%)	21 (18.3%)
その他	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.4%)	1 (0.9%)

※ 斜線はその年度のアンケートに選択肢として用いなかったことを意味する

この結果は市川・藤野¹¹⁾ 立脇¹²⁾らの先行研究の結果とも合致する。

以上のことから考えられるのは、本学人間福祉学科介護福祉士課程を希望する学生は、祖父母や高齢者福祉施設での高齢者との交流やそこで働く介護職の姿などから、高齢者や介護福祉士を身近に感じている。また、介護福祉をやりがいのある、他人に喜ばれる仕事であると感じている。疾病を抱えた状態での入院や生活上の障害により施設に入居している祖父母よりも、元気に暮らす祖父母の方が多いため、将来を考えていずれば自分自身の祖父母や親に介護

が必要になったときに、学んだことを活かして介護をしたいと考えている、という傾向がある。この傾向も先行研究と合致する結果となった。

祖父母との関係や施設訪問の経験から、入学以前に高齢者と関わる機会が多いため、将来の就職先としても高齢者福祉関連施設や在宅介護、病院といった高齢者介護を念頭に置いた分野に関心が高い、という結果は介護福祉士課程を希望する二年制養成施設と四年制養成施設の学生双方に共通の傾向であると考えられる。

2) 今後の課題

本調査で明らかになったことのひとつに、介護福祉士課程入学当初には入学以前から介護現場への関心が高い群とそうでない群に別れ、関心の高い群は学校行事や授業などの強制力の影響を受けずとも、自ら高齢者福祉施設に赴き、介護現場に触れたいという欲求を行動に移している。一方で関心の低い群は、入学までの体験学習などの機会では高齢者福祉施設に触れる機会も無かった上、AO入試のフォローアップセミナー課題のために初めて高齢者福祉施設を訪問している。もし、フォローアップセミナーで、高齢者福祉施設を訪問するという課題が出されなければ、施設訪問の経験をしないまま入学する可能性もあったのではないかな。

関心の高い群と低い群とでその後の学習意欲や生活支援技術の習熟度などに差が見られたか、などは今後の研究課題としたい。

また、今回の調査対象となった学生達は平成10（1998）年から平成14（2002）年に小学校に入学した世代である。平成14（2002）年より導入された「総合的な学習の時間」を契機に、学校教育の場で高齢者とのふれあいや高齢者福祉施設への訪問の機会に恵まれたであろう事が推測できる。今後、ゆとり教育の見直しと共に方向転換を余儀なくされ、三世代同居率はますます低くなる現代社会において、祖父母を含めた高齢者と若年世代の関わりが今以上に少なくなることは想像に難くない。そのような時代背景の中で、介護福祉士課程を希望する学生が今後増加する可能性があるのだろうか。

そこで着目したいのが「入学前の施設訪問体験」も「祖父母との同居経験」も双方共に未経験であるにもかかわらず介護福祉士課程を希望した群である。

これらの学生はどのような機会があって介護福祉士課程という進路を選んだのか。各学年で

この条件に当てはまる学生は非常に少ないため、量的な調査でその気持ちを明らかにすることは困難である。しかし、これからの介護福祉士志願者がどのような機会の中で何を体験すると介護福祉士を志そうという気持ちになるのか、追跡調査も視野に入れて行きたい。

【注】

- 1) 厚生労働省「今後の介護人材養成の在り方について（報告書）～介護分野の現状に即した介護福祉士の養成の在り方と介護人材の今後のキャリアパス～」p.2（2011）
- 2) 公益財団法人社会福祉振興・試験センター HP「都道府県別登録者数・最新版」
http://www.sssc.or.jp/touroku/pdf/pdf_t04.pdf
平成27年10月1日閲覧
- 3) 日本学術会議社会学委員会福祉職・介護職育成分科会「提言 福祉職・介護職の専門性の向上と社会的待遇の改善に向けて」p.10 日本学術会議（2011）
- 4) 福祉新聞 2014年1月13日号
- 5) 介護協News速報（27. No.3）公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会 総務・企画委員会発行 p.1（2015）
- 6) 市川 隆一郎、藤野 信行「介護福祉士をめざす学生に対する意識調査報告（第1報）—進学達成動機と介護イメージ—」聖徳大学短期大学部研究紀要 第21号 pp.295-307（1988）
- 7) 立脇一美「『介護福祉』への興味から養成校受験に至るまでの意識形成過程—介護福祉士養成校学生アンケートからの分析—」聖泉論叢 第16号 pp.177-196（2008）
- 8) 前掲6） pp.296-298
- 9) 前掲7） pp.183-188
- 10) 前掲5）
- 11) 前掲6）
- 12) 前掲7）